

特集 町長対談

寄居町町政刷新会議 源由理子会長と「寄居町の未来を語る」



1月23日に、明治大学アカデミーコモンで、寄居町町政刷新会議の源会長と島田町長が、会議でまとめ上げた提言書を基に、今後の町政について対談を行いました。
※提言書の概要については、本誌12月号参照

で、私自身もチャレンジではありましたが、非常に興味深い、新しい経験をさせていただきました。

町長 そうですね。提言書に書き添えていただきたく、うまく要点を絞り込んでいただきたく。ありがとうございます。

私が常日ごろ強く感じているのは、現状のままでは持続可能な地方自治体であるということなんです。これは寄居町に限ったことではありませんが、年金や消費税、社会保障をいくら調整しても、表面化してはいない不合理を、基礎自治体はたくさん抱えています。右肩上がり前提となつての戦後の制度設計をベースにしていたのでは、問題は肥大化するばかりです。

例えば、寄居町でも下水道事業を維持・運営するために、毎年一定の赤字を抱えているんです。他にも、国民健康保険の赤字も抱えています。



源 由理子
明治大学公共政策大学院教授
長年、国際協力の現場で調査・研究に従事。コミュニティ開発と住民参加、評価と地域の価値形成などの課題に取り組む。

町長 それでは、提言1が生まれた過程について伺ってもよろしいでしょうか。
源 はい。町政刷新会議ではいろいろな立場の人が集まり、異なった見方で町のことを考えました。本来にありとあらゆる意見が出ました。自分たちの町をよくしたいという強い議論の中で、コンパクトシティという意見が出てきました。

提言1 「誰もが安心して快適に暮らせるまちづくり」
提言4 「歴史・文化資源等を活かした魅力的な景観のまちづくり」

町長 次に、提言2についてですが、「子どもたちの国際交流機会を創出する」とありますね。次世代を担う子どもたちと国際交流を結び付けた、大変興味深い提言でした。

提言2 「子どもの能力を最大限に引き出すまちづくり」



島田 重雄
寄居町町長

寄居町町政刷新会議

「親身」な町政実現の観点から、町の予算、制度、その他町の行政全般の在り方を刷新するとともに、町および町民の役割の在り方の見直しを行うために設置されたものです。

提言1 誰もが安心して快適に暮らせるまちづくり
～中心市街地を整備し、コンパクトなまちづくりを推進する～

提言2 子どもの能力を最大限に引き出すまちづくり
～子どもたちの国際交流機会を創出する～

提言3 町民と行政による協働のまちづくり
～地域の担い手が互いに連携できる体制を構築する～

提言4 歴史・文化資源等を活かした魅力的な景観のまちづくり
～鉢形城跡の更なる整備、活用～

町長 寄居町の印象は？
源 寄居町の最初の印象は、自然豊かで大変きれいなところだということですね。私も山梨県出身なので、自然豊かという意味では親しみを覚えました。寄居町が現在抱えている問題、高齢化や人口の伸び悩みという問題も、全国的に抱えている問題なので、それほど驚きはありませんでした。

町長 町政刷新会議の感想は？
源 町政刷新会議の感想は、自然豊かで大変きれいなところだということですね。私も山梨県出身なので、自然豊かという意味では親しみを覚えました。寄居町が現在抱えている問題、高齢化や人口の伸び悩みという問題も、全国的に抱えている問題なので、それほど驚きはありませんでした。